

(様式3号)

学位論文の要旨

氏名 福田 謙

〔題名〕

Time-course evaluation of body mass index in Japanese children with obstructive sleep apnea syndrome after adenotonsillectomy: A three-year follow-up study

(日本人小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群におけるアデノイド・口蓋扁桃摘出術後3年間のBMIの経時的変化の検討)

〔要旨〕

成長障害は小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (obstructive sleep apnea syndrome, 以下, OSAS) の合併症の一つである。アデノイド・口蓋扁桃摘出術 (adenotonsillectomy, 以下, AT) は小児のOSASに対する第一選択の治療法である。

OSAS患者のAT後のBMIを経時的に検討した研究はごくわずかである。本研究では、小児OSAS患者のAT後のBMI Z-スコアの経時変化を評価検討した。ATを受けたOSAS患者33名を対象としBMI Z-スコアに基づいて2つのグループに分けた (低BMI群, 15名, 非低BMI群, 18名)。身長と体重の臨床記録は, AT前とAT後6か月, 12か月, 24か月, 36か月の各時点で収集した。両群の平均BMI Z-スコアの経時的変化をAT後36か月まで評価した。AT後6か月において平均BMI Z-スコアは, 低BMI群で有意に増加した。対照的に, 非低BMI群では, 平均BMI Z-スコアの有意な増加は認められなかった。

AT後に低BMI群のOSAS患者では, その改善を認めた。以上の結果から, ATは発育不良を認める小児OSAS患者の身体的発育を改善する治療法であることが示唆された。

作成要領

1. 要旨は、800字以内で、1枚でまとめること。
2. 題名は、和訳を括弧書きで記載すること

学位論文審査の結果の要旨

令和 3年 2月 25 日

報告番号	乙 第 1098 号	氏 名	福田 謙
論文審査担当者	主査教授	田 邊 剛	
	副査教授	山下 裕司	
	副査教授	長谷川 俊史	
学位論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Time-course evaluation of body mass index in Japanese children with obstructive sleep apnea syndrome after adenotonsillectomy: A three-year follow-up study (日本人小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群におけるアデノイド・口蓋扁桃摘出術後3年間のBMI Z-スコアの経時的変化の検討)			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) Time-course evaluation of body mass index in Japanese children with obstructive sleep apnea syndrome after adenotonsillectomy: A three-year follow-up study (日本人小児閉塞性睡眠時無呼吸症候群におけるアデノイド・口蓋扁桃摘出術後3年間のBMI Z-スコアの経時的変化の検討)			
掲載雑誌名 Frontiers in Pediatrics 第 8 巻 第 22 号 (2020 年 2 月 掲載)			
(論文審査の要旨) 【目的】 成長障害は小児における閉塞性睡眠時無呼吸症候群 (obstructive sleep apnea syndrome, 以下, OSAS) の合併症の一つである。アデノイド・口蓋扁桃摘出術 (adenotonsillectomy, 以下, AT) は小児の OSAS に対する第一選択の治療法である。 【方法】 OSAS 患者の AT 後の BMI (body mass index) を経時的に検討した研究はごくわずかである。本研究では、小児 OSAS 患者の AT 後の BMI Z-スコアの経時変化を評価検討した。AT を受けた OSAS 患者 33 名を対象とし BMI Z-スコアに基づいて2つのグループに分けた (低 BMI 群, 15 名, 非低 BMI 群, 18 名)。身長と体重の臨床記録は、AT 前と AT 後 6 か月, 12 か月, 24 か月, 36 か月の各時点で収集した。両群の平均 BMI Z-スコアの経時的変化を AT 後 36 か月まで評価した。 【結果】 AT 後 6 か月において平均 BMI Z-スコアは、低 BMI 群で有意に増加した。対照的に、非低 BMI 群では、平均 BMI Z-スコアの有意な増加は認められなかった。 【結論】 AT 後に低 BMI 群の OSAS 患者では、その改善を認めた。以上の結果から、AT は発育不良を認める小児 OSAS 患者の身体的発育を改善する治療法であることが示唆された。			
本研究は日本人小児 OSAS 患者における AT 後の成長への影響を長期的に詳細に検討した初めての論文である。よって、学位論文として価値あるものであると認める。			